



9・10月講座 PICK UP ～学びのススメ～

申込締切
7/24



「人権教育の推進」や「働き方改革」に関する講座をPICK UPしました！

No.508 人権教育講座Ⅱ

9/29(金) 場所：総合教育センター

講師：岡山大学大学院 中塚 幹也 教授 他

性的マイノリティに関する基礎知識を学び、児童生徒への支援を考えます。また、「部落差別の解消の推進に関する法律」等差別のない社会の実現を目指した法律を踏まえ、インターネット社会の中で多様化・複雑化する人権問題の理解を深め、校内研修の活性化、指導力の向上を図ります。

KEYWORD !

人権教育・性的マイノリティ・同和問題・校内研修の活性化

No.707 多忙化への対応とセルフマネジメント講座

10/24(火) 場所：北部研修所

講師：株式会社ビジネスプラスサポート
人財育成プロデューサー 山田 容子 氏

心のセルフマネジメントや生産性の高い仕事を実現するための考え方・スキルを学びます。多忙化に対応した働き方を学びたい方におすすめです。

KEYWORD !

働き方改革・セルフマネジメント・企業連携講座

No.552 特別支援教育・京都教育大学サテライト「コーディネータースキルアップⅠ」講座—学習障害(LD)教育—

10/6(金) 場所：京都教育大学

講師：京都教育大学 佐藤 克敏 教授

学習障害(LD)の障害特性や、それに応じた指導法について学びます。特別支援教育士(S.E.N.S)養成カリキュラムポイント及び資格更新ポイントへの振替認定講座です。

KEYWORD !

学習障害(LD)・読み書き障害・通常の学級で行える支援

上記の他にも9・10月は教科教育を中心に多くの講座があります。詳細は「研修講座の概要」を御覧ください。

9月以降の
出前講座
随時受付中！



出前講座の特長

働き方改革

教職員が学校を離れることなく研修を受けられるので、子どもに向き合う時間が確保できます。

深まる理解

全教職員が一堂に会して研修を受けられるので共通理解を図ることができます。

効果的な研修

講座によっては研究協議や演習、授業参観など幅広い研修活動を実施できるため、高い効果が期待できます。

出前講座を全12講座実施しています。詳細は「研修講座の概要」P14～17を御覧ください。
※夏季休業中の講座は好評のうちに申込を終了いたしました。ありがとうございました。

初任者・新規採用者研修共通「健康安全教育・地域連携」講座 講義「非常災害時の初期対応と未然防止の方策」

講師：大阪教育大学附属池田小学校 荒川 真一 副校長

児童生徒の命を守るために

～附属池田小での事件を振り返って～

「死亡した8名の児童は即死ではなく、救命活動の遅れが死因に直結する失血死である。児童に対する組織的な避難誘導、救命活動、搬送処置が行えず、被害を最小限に食い止めることができなかった」というお話から

「事件が起こってから、マニュアルを見るのではない。マニュアルを体で覚え、本当に起こったらどうすればよいか、を想像することが安全教育のポイントである。」

「教員の真剣な姿が子どもに見せる学校の安全そのものであり、自分の命を自ら守ろうとする児童生徒の育成につながる。」など多くのことを学びました。

具体的な取組

- ・マニュアルを体で覚えるため、実践的な訓練を重ねる。
- ・歩いて校区を知る、挨拶をするなど、地域とのつながりを生かす。
- ・教師の履き物や環境整備など、日常のあらゆる場面に「児童生徒を守る」視点を大切にする。



荒川 真一 副校長

学びの直送便
～ 講座速報 ～

講義「カリキュラム・マネジメントを 学校経営にどう生かすか」

講師：千葉大学 天笠 茂 特任教授



カリキュラム・マネジメントって何？

各校の**教育目標**を実現するために、**学習指導要領**等に基づいて**教育課程**を編成し、実施・評価し、改善していくことです。

カリキュラム・マネジメントの「ポイント」は？

教職員が**教育課程を共通理解**し、教科等や学年を越えて**教職員全員の経営参加**による組織運営の改善を行うことです。

カリキュラム・マネジメントの「3つの視点」

- ①学校の教育目標を踏まえた**教科横断的**な視点
- ②教育課程に関する**PDCAサイクル**を確立する視点
- ③効果的に組み合わせた**人的・物的資源**を活用する視点

つながる講座

No.712「学校運営のためのカリキュラム・マネジメント講座」

講師：岐阜大学大学院 田村 知子 准教授

11/14 (火) 場所：総合教育センター

校長講座

6/26

から

校長講座から学習指導要領改訂に関わる二つの学びを紹介いたします。

講義「深い学びとアクティブ・ラーニング」

講師：京都大学 高等教育研究開発推進センター

溝上 慎一 教授



アクティブラーニングの重要性

社会や仕事では「**個の力**」と「**協働する力**」のバランスが重視されるので早い段階での対話的・協働的な学習活動の経験が重要になります。

グループワークの原則(児童生徒にさせたい姿勢)

- ①お互いの顔・目を見る
- ②スマイル
- ③適度にうなづく

アクティブラーニングの前に学習者の「**コミュニケーション**」が必要です。

全員参加を目指すアクティブラーニング型授業

《講義+アクティブラーニング=アクティブラーニング型授業》
講義による「聴く」かも大切。ユニバーサルデザインの視点も取り入れて「**全員参加**」の授業づくりを目指すことが大切です。

つながる講座

No.451「アクティブ・ラーニング講座」

講師：国立教育政策研究所 後藤 顕一 総括研究官

2/23 (金) 場所：総合教育センター

教育相談シリーズ連載 不登校の未然防止と支援②

気付く⇒見立てる⇒関わる⇒連携する

5月に掲載した前回は「今、できること」について紹介しました。第2回となる今回は「支援のスタンス」について紹介します。不登校の子どもたちへの支援はどのようなスタンスで進めていけばよいのでしょうか。

登校を渋ったり、あいまいな理由での欠席が続いたりして「あれ？おかしいな」と気付いたら、まずは関心に向け、情報を集めましょう。子どもの話を直接聴くだけでなく、保護者、養護教諭、教科担当、部活動顧問など、いろいろな立場の人から情報を得て、様々な視点から検討することが大切です。人間関係、学習面、性格、家庭での様子などの情報からその子の**状態を見立てる(仮説を立てる)**ことで、次の適切な関わりへのヒントが必ず見えてくるものです。そして、**関わりながら見立て、見立て直しながら関わり・・・**を繰り返します。

大切なのは不登校は単なる「怠け」ではない、ということです。「行かなくてはならないのはわかっているけど身体が動かない。」という状態になりやすく、「**罪悪感**」のようなものを抱える場合も**少なくありません**。日頃会えない分余計に「先生は自分のことをどう思っているんだろう？クラスのみんなは自分のこと覚えてくれているかな？自分の机はどうなっているんだろう？」など様々なことを考えています。



子ども一人一人の不登校の背景は皆違います。状態が変化しないと教師も焦ったり不安になったりしますが、一番不安なのは本人と保護者です。そこで重要なのは**根気よく関わり続ける**ことです。とにかくつながりを切らず、「先生はあなたのことを心配しているよ。」という思いが伝わるようにすることが大切です。手紙などでつながることも1つの方法です。その関わりを中心となるのはもちろん担任です。ただ、担任が一人で孤軍奮闘することにならないよう、**チームでの連携が必要**となります。

学校で会えない子どもとは、「**今までよりも一層絆を深める**」というスタンスで向き合いましょう。その子が今どんな生活をし、何に興味を持ち、どのような心の状態であるのかを子どもや保護者と共有できることはとても重要です。

